

りますけれど、実はその15年どうしてつなごうかな、つなげるかなと心配しておるわけでございます。高齢者の話をするんですから高齢者の自分がいちばんはなしやすい話であるはずでございます。けれど今になってみますとどうも反省することがあまりに多い。しかも高齢者と申しまして少し高齢者すぎます。こういうことで、これからおはなしもうしあげること、非常に前後するかもしれないけれども、その点お許しいただきたいと思うわけでございます。

かえりみますと、昭和38年に老人福祉法という法律ができました。これにはですね老人の保護、生きがいということが主題でございまして、こういうことが当時、その時代には人生70年になったばかりかと思いますが、それが段々、段々1年ごとに進みまして今日のような80才時代を迎える急激な高齢化になってきたわけでございますが、何しろ世界に前例の無い急速な高齢化でございまして、あれもやろう、これもやろう、やろう、やろうでなかなかいい対策も見つからなかったようでございます。

ところでこの高齢化に対しまして、健全で、そうして仕事に対して旺盛な威力を持っている、こういう人々、まず、なんといいますか、生かそうではないか、この力を発揮させようではないか、ということで、その高齢者に対してその健康の度合い、体力と能力に応じたところの仕事をしてそうしてその仕事をする、それ自体が生きがいである、こういう組織が必要になってきたわけでございます。老人自体もまた行政といたしましても、先程申し上げましたところの老人福祉法、いわば甘えの老人であってはいけない、なんとかやらなければいけない、こういうところから、今申し上げましたところの施策、仕組みが考えられたわけでございます。これを受けたのが、今やっていたかしてありますところのシルバー人材センター、これであろうかと思うのでございます。シルバー人材センターは、もうしばらく前になりますが、東京都で、その江戸川で、その卵が生まれましてその地区では、せっかく、まだ働けるんだから、といってよそに勤める、それもしやだがなんとか俺らだけで色々そういう仕事を引き受けることができないだろうかとそういう小さな団体ができていたわけでございますが、申し上げましたように全国的にそういう気分になりまして労働省でこれに目を付けましてこういう団体が希望があるならば、自分たち労働省でこれを補助の対象にしようではないか、こういうことになったわけでございます。これに応じて全国あっちこちにシルバー人材センター当時は、高齢者事業団といっておりましたが、それが生まれてまいりました。現在では、全国で380、会員が、これは63年末の統計でございますが会員が182,000、ここで働くことにたいする契約金が、566億ですか、これだけの金額をあげております。新潟県と致しましては9箇所でございます。会員が5600ちょっとでございますね、そこの契約金額は16億でございます。さて、三条は、57年に創業いたしたわけでございますが、今では63年度末には、会員数が460、働きますところの金の話になりますが、179,000,000です。これだけの実績を今あげているとまあこういう状態でございます。さて、私どもは、どんな組織で、どんな仕事をしているのかという話にさせていただきたいと思うのですけれども、実は、年をとってきたせいもありますし、もともとのせいもありますけれども、秩序だってお話をするつもりでございますけれども申し上げましたような事情

で、話が前後いたしますので、ひとつお許しをいただきたいと思います。この資料、仕事でございます。仕事と申し上げるような仕事ではございませんが、まず、その地方にあったところの、三条には三条の、本来からのその地方の仕事があるわけでございます。金物につくした仕事、加茂ならば木工につくした仕事、そういう地方につくした短期的、雇われるのではありませんので、補助的な仕事と、こういう仕事をしているわけでございます。仕事の内容はそんなものでございまして、具体的に申し上げますと、早い例は、草取りであるとか、庭の手入れであるとか、冬がこいであるとか、障子はり、襖はり、また市役所等で、臨時的に書く仕事が多くなれば、その仕事をさせていただく、また民間の事業所で色々通信簿の必要なときにはその上書きをさせていただく、こういったような仕事をさせていただいているわけでございます。ところで、仕事の内容につきましては、それぞれ異なっておりますけれども、その基本的理念と致しましてはこれは全国これだ、こうやとこういう基本的理念を持っております。それは、自主的である、自立をしているんだ、会員同志は互いにともに働き、お互いに助け合おうではないかと、こういう基本的理念を以てセンターを形成しているわけでございます。そうしてその形成は公益事業である、社団法人である、こういうことになっております。先程申し上げましたように労働省の補助対象と致しましては、おおよそ10万の都市で1箇所認めようと、今等しく10万都市のレベルを下げましたからとにかくそういう10万都市1箇所こういう目安でございます。新潟県ではまず北から申し上げますと、新発田、新潟、新津、三条、長岡、柏崎、上越、それに十日町と最近その外に燕、今申し上げましたのは労働省の対象のセンターでございますが、私どもミニ・シルバーセンターと申しておりますが、燕とか、見附とか、糸魚川、五泉、こういうところにも六日町、小千谷と思われますが、こういうところは今労働省の対象として扱われてはいませんけれどもいずれに致しましても知事の認可がいるわけでございます。そんな活動をしております。そうして、この会員はですね長い間自分たちが学び経験してきたところのものを地域のために提供して、地域の活性化に貢献しようとこれがみんなの持っている、持ってもらうところの個人個人、会員一人一人の心構えでございまして、これだけですとボランティアになりますが、それに対しては報酬があるわけでございます。これもですね、生活のためという方は入会をお断りしております。それはやはり安定所等行かれまして、雇用関係を持った、前にも申し上げましたかも知れませんが、私どものところではこの雇用関係はないのでございます。会員同志の集まりででございます。仕事は、センターでお引き受けいたします。そういうことで個人と仕事をお出しくださるところの直接取引ではないのでございます。センターと町の方、あるいは事業所の方契約を致しましてその契約を会員に請け負ってもらう委託をする、こういう形で仕事をしているわけでございます。そういうわけでもし行った先で事故等があります、仕事上の事故、または仕事をするために出掛けて行く、帰る、こういうところの事故に対しましては、仕事をお出しくださったところにはご迷惑をおかけしない、全部センターがお引き受けします、がやるんでございます、こういうことになっております。さて、センターの会員になりたいというどなたでもよろしいのでございますが、健康であっていただくという、これが第一条件でございます。しかも、年